

## あ～ったか移動町長室記録（斜里町指導農業士・農業士会）

日 時	12月5日（月）14:00～16:30	会 場	役場大会議室
町民参加者数	7人（事務局含む）		
内容詳細			
指導農業士・農業士会の発言		役場からの回答	
<p><b>【会長あいさつ】</b>            今年は、気象に悩まされた年だった。天気によって左右される職業とわかっていながらも、無力だと感じた。こちらから意見・要望を言わせていただくが、みなさんの方から私たち生産者に対して何かあればおっしゃっていただきたい。いい意見交換ができればと思う。</p> <p><b>【ジャガイモシストセンチュウの対策について】</b>            ・さらなる、シロシストの抵抗性品種の開発が急がれている。現在の抵抗性品種だけでは対応できないシストの種が出てくると、防ぎようがなく、シストの侵入を遮断するという方法しかない。オホーツク管内全体で、抵抗品種の開発を早急に進めていただく必要がある。</p> <p>・シロシストが発生した土壌だと、暗渠排水の事業もできないのか？</p> <p>・シロシストの蔓延を防ぐために、車両の洗浄などの対策だけでは限界がある。根本的な解決のためにも、やはり抵抗性品種の開発が急務だ。            斜里町の基幹作物を守るという意味で、道・国に対して抵抗性品種を要望して欲しい。</p> <p><b>【災害対策について】</b>            ・今年の台風で河川が氾濫したが、災害対策のため、河川改修をお願いしたい。町から北海道に対し、要請をお願いしたい。</p>		<p><b>【町長あいさつ】</b>            天候が厳しい中でも斜里町の農業振興に寄与していただいたことに、感謝申し上げたい。            TPP など課題は多くあるが、私たちがやるべきことは、それぞれが知恵を出し合って、解決に向けて取り組んでいくことだと思う。そういう意味でも、広くいろんなご意見をいただきたい。</p> <p>→まずは、発生した圃場からシストが蔓延しないような工夫が一番重要だと思う。            抵抗品種については、平成32～33年度を目途に開発していきたいと聞いている。</p> <p>→そういった話は聞いていない。            車両の洗浄を行えば、できると思う。</p> <p>→了解した。</p> <p>→今回の災害では、水の力のすごさを感じた。河畔林の管理が不十分で、流木が発生し、川の越水が起きている。            台風直後に代議士、副知事、振興局が現地に視察に来ているので、現状は把握している。確実に河川の管理を行ってもらおうよう、継続して要請していく。            今回の台風災害対策として北海道で二級河川整備に係る大規模な補正予算がついている。幾品川、秋の川で河道（横幅）の掘削及び河畔林の伐開を来年度から二ヶ年かけて行う予定と聞いている。</p>	

### 【汚泥の堆肥化について】

- ・下水処理で出た汚泥を堆肥化できないか？  
現在、堆肥が足りない状況。

### 【農業 ICT 化に係るインフラ整備について】

・農家と農協とのやりとりは、紙ベース（FAX）からデータベースへ変わってきている。光回線が開通していない地域なので、メールではなく USB の受け渡しで対応している。今後、情報インフラの整備は避けて通れない課題。金銭面の問題が大きいと思うが、斜里全域で光回線が開通する見込みはないのか。

・もう一点、農業 ICT 化に係わる課題について。昨年は、国の補助金を活用し、振興センターに GPS 電波を補正する基地局を設置した。また、産地パワーアップ事業では自動操舵システムの設置要望が約 170 台あるところ。このままだと、振興センターの基地局だけでは、容量をオーバーしてしまうという課題が生じている。

また、振興センターの基地局が故障してしまった時の、バックアップ体制も欲しい。そのため、農協とも、もう一ヶ所設置しなければならないと話していたところ。基地局は農業だけの利用ではなく、将来的には測量や除雪技術などにも活用できるものでもあるので町からのサポート体制をいただきたいと考えている。

ICT 推進協議会でも、これから検討していきたいと思う。

・農家の後継者不足を考え、斜里の農地面積をカバーするには ICT を使った農業はこれから重要である。今から、遅れをとってはいけない。

また、光回線は、住居環境の改善という意味でも必要なこと。コストの面は大きいと思うが、どのように解決すべきか町も考えてほしい。

→これまで汚泥に含まれる重金属の含量が農地還元する際の懸念材料だったが、すべて基準値以下。むしろ土壌にとっての有効成分が高くなる調査結果が出ている。コスト削減の面でも汚泥等を利用した堆肥づくりは必要なことと思っている。

農協とも協力して、有効利用に向けた検討を進めていきたい。

農協の考えをしっかりと把握し、過去の経過も確認した上で、対応したい。持続可能な農業という観点からも、必要なことだと考えている。

→光回線を斜里の基地局から整備するとしたら、1 km 当たり 550 万円というコストがかかる。

NTT も住民の要望があって、回線の整備に着手するので、要望を出し続けていくことが重要だと思う。

技術の進歩に期待しているところが現状である。また、これからほんの一部の地域だけ回線を整備したとして、各戸で利益に偏りが出ていけない。

・現在の基地局で容量は足りると聞いていた。それが確かであれば、現在、計画している産地パワーアップ事業の機械導入計画も変更せざるを得なくなる。

・基地局の設置に関しても、光回線に関しても、農家の全戸数が必要ならばともかく、一部の農家だけということであれば、金銭面を考えて、町での対応は難しい。下水処理のように、必要性や地域によって使い分けをしながら、一定の機能を保持しているのが現状である。

光回線について、NTT とウトロまでの道路の沿線までつなげたら、いくらかなど継続して話はしている。大きな課題という認識はある。粘り強く、交渉していきたい。

**【保安林の整備について】**

・道有林が、畑に邪魔になっている。  
防風林が枯れている。特に、密度が高い場所の葉が枯れている。偶発的なものだったら、取り越し苦労でいいが、病気、虫などが原因であれば、対処すべき。大量に倒木してからでは遅い。

**【副会長あいさつ】**

こちらからの要望ばかりになってしまったが、今後とも斜の農業発展に向けて、協議する場をつくっていきたいと思う。

→水産林務課にその状況を伝えたい。